

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

奈良市立東登美ヶ丘小学校 紺谷 隆
磯部 孝子
巽 弘樹

1 単元名 「未来志向的平和学習 ～ #平和を見つめよう～」

2 単元目標

- ・平和の維持について自分たちになにができるかという課題を持って、調べ学習や協同学習を通して、身のまわりの平和について見つめ、自分たちの考えをまとめることができる。 (知識・理解)
- ・日本、世界、身のまわりの平和を見つめ、議論を通して協同的、非暴力な社会の実現に向けて、平和創造の方法を自分ごととして考えることができる。 (思考・判断・表現)
- ・平和に興味を持ち、意欲的に他者と交流し自分の考え方を広げ、自分なりの答えを見つけようとしている。 (主体的な態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元に関しては、夏休みの課題である平和新聞で自ら広島、長崎に原爆が落とされたことやロシアのウクライナ侵攻、奈良の戦争について調べている。また、社会では、「戦争と人々の暮らし」の学習を通して、広島・長崎に原爆が落とされるまでにあった出来事、戦時中の子どもたちの生活、戦争で多数が犠牲になったこと、太平洋戦争をすることになった背景などを学習する。これらの学習と並行してあらゆる「平和」について考えさせたいという思いから「#平和を見つけよう」という課題に取り組んでいく。五井平和財団が行っている『平和に関する世界の若者の意識調査 (2021)』での「世界が平和になるために、解決しなければいけない重要な課題はなんだと思いますか。」という質問に対して、日本は 56.1%が戦争や紛争をなくすことと答えている。このことから平和＝戦争・紛争の解決ということが根付いているということがわかる。本単元では平和学習とは、戦争の悲惨さや恐ろしさを学ぶことだけでなく、身のまわりのあらゆる出来事が平和につながること、協同的に活動すること、知識を調べようとする。相手を思いやることを意識させたい。それらを通して社会の一員として自分の考えを他者に広げたり、深めたりして平和への価値観の変容につなげる教材としている。

(2) 児童観

本学級の児童は毎月の友だちを大切にする日の活動を通して、さまざまな人権的な価値観を学ぼうとしてきた。また、6学年の取り組みとして、友達を褒め合うほめほめシャワーを毎日行い自尊感情、他者への理解や多様性の受容ができる素地を養っている。総合的な学習の時間、「東登美飛鳥王国」で自分たちが飛鳥村の現状を知り、課題を解決するために話し合い、自分たちのできることとして4年生や保護者へのPRをスライドで紹介した。これらの活動を通して、色々な人々の支援があることや協働して課題解決に取り組むことが大切であることを学んできた。また、社会科の学習では、単元ごとに学習課題を設定し、主体的に歴史の「なぜ」に迫る授業を行なっている。そのため、戦争について歴史学習においても「なぜ起きたのか。」を小グループやジャムボードを用いて話し合い、互いに考え方や感じ方の共有をしてきた。このことから、今回の平和学習では、平和を自分事としてとらえ、今の自分たちができることを考えることは、国際平和を始め世界の課題について主体的に関わろうとする児童を育成することに繋がると考える。

(3) 指導観

本単元の指導において、最も大切にしたいことが「未来的志向の平和学習」である。21世紀の平和主義のためのハーグ・アジェンダでは、平和教育として「子どもが平和問題を自分事として捉え、平和形成のために必要な技能・態度を身につける。」と示された。このことから過去の戦争について扱う教材を用いた「戦争はダメ。かわいそう。こわい。」といった心情的平和学習だけでなく、人間の多様性と対立に対する建設的な代替案を議論し合ったり、現在日本が行なっている平和維持活動について話し合ったり、世界、日本、身のまわりの平和を意識的に見つめたりして、未来への変化を思い描く平和学習としたい。そして、非暴力で解決するために自分たちには何ができるのかを主体的・対話的に課題に取り組むことで、より一層自分事として捉えることができるようになる。導入として、オレンジゲームを通して平和学習を行う。争いを解決するためには、知識、情報、公平さが必要であること、オレンジを分け合うための対話をしっかりとすることが必要だということを学ぶ教材である。この学習が次の平和を見つめ協同的な学習へとつながるだろう。調べるでは、「日本は平和だろうか。」「世界は平和だろうか。」という問いに対して子どもに議論させることで、社会に目を向け、自分たちに深く関わる内容として捉えさせる。深める内容として、現在大学生などを中心に核兵器のない世界の実現を願ってつながるグループ活動を行っているカクワカ広島の中田先生のお話を聞き、自分にできる具体的な行動を考えさせる。その後、「# 平和を見つめよう」という課題設定をし、絵本を利用し、身のまわりの平和は「どんな色?」「どんな味?」といった、五感を用いて、平和を考えさせる。最後に、「平和な街を描こう」という課題を小グループで考え、発表し合う。子どもたちが考える多様な平和への考えを期待したい。

学習のまとめとして、社会で学習した「戦争の恐ろしさ」や「平和維持のための活動」について考えをまとめたり、楽しく平和について学ぶワークショップを社会科ゲストティーチャーの帝塚山大学の生徒と共に考え、その後、姫路市内の小学校と交流し、新たに自分たちの課題を見つけたり、自分の考えをさらに深めたりすることで、自分たちが学びを建設したという実感を持たせ、SDGs「平和と公正を全ての人に」の達成に貢献できるよう指導する。

(4) ESD との関連

① ESD の視点

- ・公平性…平和の実現のために努力している人の生き方を通して、平和とはお互いのことを理解し、助け合うことでみんなの幸せを実現することだと気づくことができる。
- ・責任性…自分一人一人の行動が平和な社会の実現につながることを理解して、自分たちにできることに取り組むことができる。

② 育てたい ESD の資質・能力

- ・クリティカル・シンキング…平和を実現している人たちの話を聞いたり、取り組みを調べたりしたことを基に、自分でできることを見つけ出す。
- ・コミュニケーション力……戦争や核廃止のために活動する人の話を聞いて、友達や周りの人と話し合いをしたりして、社会に発信することができる。
- ・繋がりを尊重する態度……社会の一員として、自分たちに世界を作る責任があることに気づき、活動に取り組もうとすることができる。

③ 育てたい ESD の価値観

- ・世代間の公正…戦争体験した人から、経験をしていない世代に語り継ぐことで、戦争の悲惨さや恐ろしさを知り、二度と戦争を繰り返してはいけにということを受け継ぐ。
- ・幸福であること…身の回りの平和を見つめ、自分や他者をどのようにして幸せにするかを考える。

④ 達成を期待する SDGs 10 16 平和と公正を全ての人に

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に取り組む態度
<p>① 戦争や原爆について調べたり、ゲストティーチャーのお話を聞いたりして、人々は平和維持のために努力し、活動していることを理解できる。</p> <p>② 聞いたことや調べたこと、自分の考えを言葉や図、絵などを用いてそれらを関連付けながらまとめる技能を身につけている。</p>	<p>① 「平和」という言葉について考え、平和＝戦争がないことではないことに気づく。</p> <p>② 自分にとっての平和を見つけ、タブレットで考えをまとめることができる。</p> <p>③ 学んだことやこれからの自分たちにできることをまとめ、学校交流で発表することができる。</p>	<p>① 「平和」とは戦争以外の社会問題にもかかわっていることに気づき、自分の考えを伝えようとしている。</p> <p>② 他者の「平和」を大切に、今の自分にできることを考えようとしている。</p>

5 単元計画（全 11 時間）

	学習活動・内容	学習への支援	評価
見つめる	<p>① 平和ってなんだろう？ 「オレンジゲーム」 一つのオレンジを平和的に分けるといふ課題に取り組む。互いに条件を与え、話し合いを通して平和的にわかるにはどのようにすればよいのかを考える。</p>	<p>平和的にわかることの難しさを知り、平和的な解決のためには、①情報共有、②公平さ、公正さ、③知識が大切であるということに気づかせる。</p>	ウ②
調べる	<p>② 「世界は平和だろうか」 ③ 「日本は平和だろうか」 課題に対して 100 点満点中何点かをグループで話し合って考え、理由とともに発表させる。</p>	<p>国際平和や日本の平和に関する若者の意識調査アンケートを活用して、様々な社会問題が平和につながることに気づかせる。</p>	イ① ウ①②
深める	<p>「#平和を見つけよう」 ④ 平和を五感で表してみよう。 「平和ってどんな味？」の絵本を用いて平和の味、におい、音などを言葉や絵で表す。 ⑤ 平和な街を描いてみよう グループで話し合い平和な街を描かせ、理由とともに発表させる。 ⑥ 修学旅行「鶉野飛行場跡」 ⑦ カクワカ広島 田中先生のお話 核廃絶のために現在も運動している若者の話を聞く。</p>	<p>・身の回りにはたくさんの平和があり、それらを守るために社会では多くの工夫がなされていることに気づかせる。</p> <p>・当時の人の思いや、今も平和のために活動している人の思いを知り、具体的に活動する方法や考え方を知る。</p>	イ① ウ①② ア① ウ①②
広げる	<p>⑧ 伝え方を考えよう</p> <p>⑨ ～ ⑪ 学校交流「平和を伝えよう」 社会で学習した「戦争の恐ろしさ」や「平和を守る活動」など平和学習を通して学んだことを姫路市内の小学校に学校交流で伝える。</p>	<p>自分事として行動できることを話し合わせ、表現方法を考えさせる。</p> <p>社会のゲストティーチャーで来てくれた帝塚山大学の学生に発表資料作成を手伝ってもらい、評価してもらっておく。</p>	ア② イ①② ③ ウ②

6—① 本時案 (2 / 1 1)

磯部 孝子

○本時の目標

- ・「世界は平和だろうか」という問いについて考え、お互いの意見を出し合い、さらに「世界の若者」という近い世代のアンケート結果をみることで、社会でも重要視されていることを実感し、自分たちの将来にも深く関わる内容として捉えさせる。

○本時の展開

学習活動	主な発問と指示 (○) 予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点 評価規準 (評価方法)
1 本時のめあてを確認する。	○「オレンジゲーム」を通してみんなが感じたことなどをピックアップして伝え、「平和的に」解決するという難しさを再度確認する。 ○あなたにとって平和とは何ですか。アンケートで答えましょう。	・結果から、自分にとっての平和について触れる。
「世界は平和だろうか」と聞かれたら、自分なら何と答えるか考えよう。		
2 めあてについて各自考える。 3 平和に関して世界の若者がどう考えているのかを資料を見てグループで考える。 4 平和だと思うようにするには、どうしたらよいかをグループで考える。 5 ふりかえり	○世界はいま平和なのか各自で考えましょう。そう考える理由も考えましょう。 ○アンケートに「はい」「いいえ」「どちらでもない」で答えましょう。 ・平和だと思わない。戦争をしている国があるから。 ・ロシアとウクライナが戦争をしているから平和じゃない。 ・全世界で見たら戦争をしている国はそんなにないのではないかな？国によると思う。 ○今のそれぞれの考えをもとに、「平和に関する世界の若者の意識調査(2021 年度調査結果)」をみて、世界の若者たちはどう考えているのかをみて、気づいたことをジャムボードに書きましょう。 ・40 点以下が多い ・平和だと思っていない人の方が多い？ ・完全に平和ではないと感じている人が多い。 ・半分くらいは平和だと思っている。 ○100 点にできると思いますか。そのためにはどうしたらいいかグループで意見を出し合ってジャムボードに書きましょう。 ・戦争をなくす。 ・差別をなくす。 ・みんなで思いやりをもって接するようになる。	・ロイロノートのアンケート機能で学級全体がどのように感じているのかを視覚化して表す。 ・「はい」か「いいえ」にこだわらず、理由も考えたうえで、分からないという意見も取り入れる。 イ① ウ①② ・五井平和財団について、説明をしておく。 ・平和だと思うか、を点数で示したグラフを見せる。 0 点は平和だと思っていない。 100 点は平和だと思っている。 イ①② ウ①② ・世界が平和になるために解決しなければならない重要な課題についてのアンケート調査の回答資料も話し合いのあとに見せ、世界で考えられる 100 点に向けて若者が考えていることを伝え、戦争をなくすことだけが重要視されているわけではないことを気付かせる。 イ①② ウ①②

6—② 本時案 (3 / 1 1)

巽 弘樹

○本時の目標

- ・日本の平和について話し合い、どんなことが平和につながるか考えることができる。

○本時の展開

学習活動	主な発問と指示 (○) 予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点 評価規準 (評価方法)
<p>1 前時のオレンジゲームの授業をふりかえる。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○前回の、「オレンジを平和的に分ける」という課題に対して感じたことをみんなでふりかえりましょう。</p>	<p>・平和を作ることや維持することの難しさ、話し合うこと、譲り合うことの大切さに気づかせる。</p>
<p>「日本は平和だろうか」という問いに対して、意見を交流しよう。</p>		
<p>3 日本が平和かについてロイロノートを使ってアンケートを行う。(選択肢は、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3つ。)</p> <p>4 アンケート結果の「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3つのチームに分かれて意見を交流する。</p>	<p>○日本は平和か、アンケートをしましょう。回答した人は、なぜそう思ったのか考えましょう。</p> <p>○同じ考えの人と集まって、意見を交流しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はい」・・・日本では戦争が起こっていないからです。 ・食べるものや着るものがしっかりあるからです。 ・「いいえ」・・・戦争は起こっていないが、恐ろしい事件も日本であるからです。 ・住んでいる場所によっては平和じゃない人もいるかもしれないからです。 ・平和なこともあるけど平和でもないことがあるからです。 	<p>・なぜそう思ったのか、自分の考えを明確にさせる。</p> <p>・回答に偏りがあるなど、人数が多い場合は少人数のグループに分けてグループ活動を行う。</p> <p>・日本の平和に関するアンケート資料を示し、たくさんの現状があることに気付かせる。</p>
<p>4 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。</p>	<p>○次回は、世界の平和について考えていきます。</p>	<p>・今日の授業で感じたことをロイロノートに書かせる。</p>

○本時の目標

- ・話し合いを通して、身の回りの平和を見つめ、人それぞれに多様な平和の感じ方があることに気づく。
- ・社会には社会問題を克服するために多くの工夫がされていることに気づく。

○本時の展開

学習内容	主な発問と指示（○） 予想される児童の反応（・）	指導上の留意点 評価規準（評価方法）
1、「#平和を見つけよう」のワークシートを振り返る。	○平和を五感で表したらどんな色や味になったのかふりかえろう。 ・色は緑！やわらかい感じ。 ・虹色！多様性がある。 ・においては晩御飯のにおい。	
平和な街ってどんな街だろう。		
2、画用紙に平和な街を描き、理由とともに発表させる。	○身の回りの社会問題に目を向け、多様な平和についての考え方があることに気づかせる。 ・同性愛も大切だと思ったから、男性同士の結婚を描いた。 ・自然が生き生きとしていることが平和だと思うから、きれいな川を描いた。 ・みんなが感触をふわふわにしていたからプリンにしてみた。 ・髪型なども多様性があったよと思うからいろいろな髪形にした。	イ② ウ①② (ワークシート 振り返り)
3、ふりかえり		

7 成果と課題

【成果】

- ・子どもたちが平和について未来のことを見据えて行動しようとしていた。自分たちで平和教材を作っていた。(トランプ、双六、かるた、カレンダー、動画など)
- ・実際に行動している学生やカクワカ広島の田中先生のお話を聞いて、自分たちも行動することができることに気づいていた。
- ・「平和＝戦争がないこと」ではなく、いろいろな社会問題を解決することが平和につながることに気づいていた。人権作文で、「僕の平和とは多様性を認め合うこと。」と書いている児童もいた

【課題】

- ・「広げる」が難しい。子どもたちのアイデアを生かそうとするがありがたきものになってしまう。子どもが広げる活動をする必要性をどのように与えていくのかをこれからも試行錯誤したい。

8 単元構想図（総合 11 時間）

